

溝辺小学校 校長室だより

NO 178

互いを認め、共に挑戦する児童の育成

1 子供をほめようプロジェクト

子供をほめようプロジェクトの**1月までの表彰が739枚**になりました。3学期始めの職員会議では、「1,000枚に達するのでは」と話をしましたが、実際に**1,000枚到達しそう**です。先生方が子供一人一人をよく見てくださっていて、ほめて伸ばそうというスタンスでいるおかげです。ありがとうございます。先週木曜日は、23枚の表彰があり賞状を作るのに2時間近くかかりましたが、うれしい悲鳴ということで前向きにとらえています。最近の中で素晴らしいと思ったのは、4年のまもるさんの表彰でした。デザートを自分も食べたいという思いもありながら、欠席してケーキを食べられなかつた友達のことを思って譲ってくれたことに感心しました。そのような言動ができる子が増えてくるといいなあと思うことでした。

ゆずってくれたで賞
4年 戸越 謙さん
給食のデザートじゃんけんを
しようとしたとき 友達に
きのう休んでいて
ケーキ食べていないからゆずるよ
と 言って じゃんけんせずに
ゆずっていました 自分よりも
相手のことを考える 優しい行動に
見ていて とても温かい
気持ちになりました
霧島市立溝辺小学校
校長 林 貢介



2 逆算して考える（山本太平「仕事短くやる習慣」より）

授業にいても「まとめから逆算してめあてを設定する」と言われます。逆算することについて、山本さんは次のように書いています。

関所を設けて、ゴールまでのルートを逆算する

目標達成までの道筋を「分割」して考える

データや情報を集めて現状分析ができたら、そのタスクを達成するための具体的なルートを考えるステージに入ります。

ここで大事なポイントは、直感や単なる思いつきを頼りに、「これが最短ルートだろう」と思い込んで走りださないことです。

最適なルートを見極めるためには、**ゴール地点から逆算して考えること**です。「**関所**」を設定すると、**ゴールまでの道筋を分割して考えることができます**。それをひとつずつクリアしていくことが、結果的に最短ルートとなります。

例えば、小学生の子を持つ親が、「将来は医者にさせたい」と考えたとします。いくら医者にさせたくても、いきなり難解な医学書を買い与えて、猛勉強をさせるような親はいません。医者になるためには、大学の医学部に入って、医師の国家試験に合格するという「**関所**」があることを知っているからです。冷静に考えれば誰でもわかるのですが、なぜか仕事になると、似たような勘違いをしてしまうことがあるのです。

最短ルートでゴールに向かうための「逆算思考」

大学の医学部に入って、医師の国家試験にパスするという関所を設定すると、そこに到達するために通過すべき関所が次々と見えてきます。

大学は学費の高い私立でも大丈夫か？偏差値の高い国公立に合格でき

裏面もあります

るか？高校は私立の名門校を選ぶべきか？公立の学校がいいか？中学はエスカレーター式の私立を受験させるか？公立の中学校でいいのか？

この他にも、「今の学力で、希望するような中学に合格できるのか？」「中学受験のための学習塾に通わせる必要はないのか？」「そもそも現在の資産状況で教育費は大丈夫なのか？」「何か資産運用を始める必要はないのか？」など、取り組むべき課題が明らかになります。

子供を医者にするという「ゴール」に向かうためには、こうした課題を乗り越えて、着実に多くの関所をクリアしていく必要があるのです。

ゴールに到達するためのルートを、鳥の目で俯瞰しながら「逆算」して考えることで、明確な関所を設定することができます。

こうした視点を持つことが、仕事を最短ルートで進めるためのプランニング（計画立案）に役立ちます。